



ThreeBond



2022

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.3

RACE REPORT



SUZUKA CIRCUIT



試練

2022 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 2 大会（第 3 戦）が、4 月 23 日（土）～24 日（日）にかけて三重県の鈴鹿サーキットで開催された。チームは前大会での状況を分析し、ダウンフォースが求められる鈴鹿サーキットのコースレイアウトを考慮すると共に、前回のレースでは不足気味だったリヤのグリップを確保する方向でセッティングを大幅に見直しマシンを仕上げ、レースに臨んだ。

公式予選

4 月 23 日（土）の鈴鹿サーキットは、春らしい薄曇りとなり朝のうちに気温が 20℃、路面温度が 27℃を超える暖かいコンディションとなった。午前 9 時 50 分から始まったフリー走行で変更したセッティングに好感触を覚えたが、リヤのグリップが上がった分、今度はフロントのグリップが不足気味となったので、公式予選に備えてピットインを繰り返して微調整を加えた。しかし満足いくレベルまで仕上がらないまま 1 時間半の走行セッションは終わってしまった。

その後、午後 3 時 25 分からの公式予選 Q1 セッション B 組に出走。気温、路温がさらに上昇する中、タイムアタックに入り 1 分 37 秒 527 を記録した。しかし、セッション終了時点で福住選手の順位は B 組 8 番手に終わった。

決勝レース

24 日（日）の鈴鹿サーキットは朝から雨となった。午前 8 時 45 分から 30 分間で行われたフリー走行に出走した福住選手は、全体的なグリップ不足を訴えた。ラップタイムはトップの選手に対し 4 秒 759 遅いという状況で、チームは決勝レースに向けてセッティングを根本的に見直すことに決め、昨シーズンウェットコンディションになった第 3 戦オートポリス戦で好調だったセッティングを基本に、鈴鹿サーキット向け微調整を加えてマシンを仕上げ直し、決勝レースに備えた。午後 2 時 30 分、31 週の決勝レースが始まった。レインタイヤを装着してスターティンググリッド 16 番手についた福住選手は、スタート合図とともに好加速、4 ポジションを上げて 12 番手でオープニングラップを終えた。しかし、その後ペースは上がらず、前車との間隔は周回毎に開き、後続から徐々に迫られ始めた。5 周を過ぎて、各車タイヤの消耗が進み、一気に全体のペースが低下したが、グリップダウンは周囲よりも大幅で、先頭集団のラップタイムが 2 分フラット程度となったのに対し、福住選手のラップタイムは 10 周目に 2 分 3 秒強にまで低下しポジションも 1 つ落として 13 番手となった。チームは無線で福住選手と相談のうえタイヤ交換を決断、12 周を走行した段階で雨量が変わらないことから、ピットインさせタイヤ交換を行った。この結果、福住選手のポジションは 19 番手に後退した。チームとしては他の車両もタイヤ交換をすると予想した作戦だったが、タイヤ交換を行ったのは福住選手を含め 5 台のみで、その他の車両は走行を続行。レース後半には路面のドライアップが進むと共に、タイヤ無交換車両のタイヤの状況が好転してペースが戻っていった。結局、福住選手はピット作業の分、後れを取り、18 周目に 18 番手、25 周目に 17 番手にポジションを上げたが、そのままチェッカーフラッグを受けることとなった。

予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#1 野尻 智紀 1'36.352
2	#3 山下 健太 1'36.427
3	#4 サッシャ・フェネストラズ 1'36.535
16	#12 福住 仁嶺 1'37.527 (Q1 敗退)



ドライバー／監督コメント

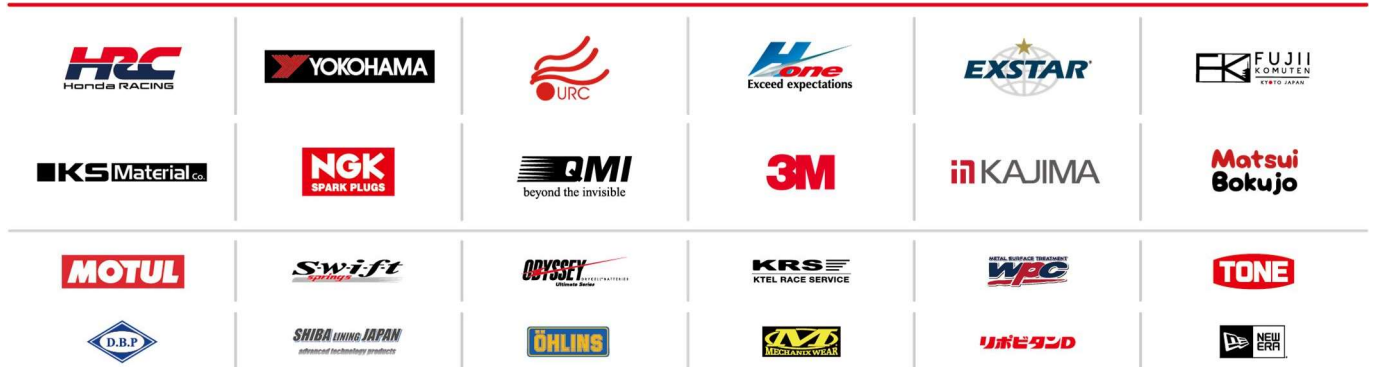
ドライバー 福住 仁嶺 コメント

予選に関しては、もう少しでQ2に行けそうなところまでは来ていますが、ロングランになると、なかなかペースを上げられず非常に厳しくなるという状況が続いています。1戦1戦大事に戦って、少しでも何か良くなることをチームのみんなで見つけていく必要があります。ただ、決勝のスタートはうまくいきました。その後3、4周は「今回いけるかも」という感触でしたが、周回を重ねると突然グリップダウンが起きました。考え方を変えると、今のクルマの状態は、レースの最初に強すぎると言えるのかもしれませんが。結局序盤のうちに、前についていくので精一杯になって後ろが追いついてくるという状況になってしまい、周囲に比べて明らかにペースが落ちてしまったので、ビットインせざるをえませんでした。もちろん僕の走りにも何か要因があるかもしれないので、前向きにみんなにより良い方向性を考えてみます。



監督 道上 龍 コメント

大幅にセッティングを変えて持ち込みましたが、あまり効果がありませんでした。ウェットコンディションになった決勝では、フロントタイヤが厳しくなるのではないかという懸念がありましたが、案の定レースが始まると福住選手は無線でタイヤが厳しいとコメントし、ラップタイムも2分3秒台まで落ちました。これはもう早めに対処しようとタイヤ交換を決断しました。ただ、結局全体の5台しかタイヤ交換をせず、残りはタイヤ無交換で走り続けてしまいました。あのまま福住選手を走らせ続ければ、タイムが戻ったかもしれませんが、タイムの落ちが明らかに大きかったので「我慢しろ、このまま行け」とは言えませんでした。福住選手が加入してくれて、去年分からなかったことが色々と分かってきたのは事実ですが、それをなかなか解決できないでいます。走って確かめる時間が限られているので非常に難しいですが、何とか状況を抜け出す道を考えます。



エンジニアコメント

チーフエンジニア 伊与木 仁 コメント

決勝レースでタイヤ交換をするまで、雨の中でそれなりに走れていましたが、あそこでタイヤ交換をするかしないかという決断は難しかったです。ただ、フロントタイヤの摩耗が心配でしたし、福住選手のラップタイムが3秒落ちまで下がってしまったので決断しました。あのまま走れば無交換組のようにタイムが上がっていったかと言うと正直難しかったとは思いますが。タイヤを交換してからは路面が徐々に良くなっていき、路面が良くなれば福住選手もコーナーに突っ込もうと頑張るのですが、今度はリアのグリップが足りなくなるという症状が出たようで、タイヤ交換後のほうがオーバーステア傾向になったと福住選手は言っていました。次戦、何とか巻き返しを図れるよう考えてみます。



トラックエンジニア 新井 凌 コメント

現状車の状態は、どこのサーキットでも起きている症状があるので、今回は事前テストでも触らなかった領域にまで手を入れて持ち込みました。しかし良くなった面がある一方で悪くなった面もありました。決勝日は朝から雨になったので、フリー走行はクルマを柔らかくする方向で走ったのですが、それでは全く足りなかったため、決勝に向けて違うクルマと言っても良いような状態にセットしてレースに臨みました。タイヤ交換は難しい判断でしたが、作戦としては失敗でした。ここまで富士、鈴鹿とどちらも事前にテストをしてきたコースなのですが、次戦は去年のレース以来のオートポリスで開催されます。他のサーキットと比べて要求されるダウンフォースが大きいですし路面のコンディションも異なりますが、今抱えている問題はオートポリスでも出てくると思うので、その改善とオートポリスを走るためのセッティングに、どこで折り合い付けるかを考えて臨みます。



レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	50	松下信治	B-Max Racing Team	1:01'18.681
2	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	1:01'23.734
3	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:01'26.794
4	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	1:01'37.100
5	7	小林可夢偉	KCMG	1:01'40.575
6	18	国本雄資	KCMG	1:02'03.285
7	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	1:02'05.062
8	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:02'06.490
9	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	1:02'10.245
10	53	佐藤蓮	TEAM GOH	1:02'11.168
11	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	1:02'11.768
12	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	1:02'22.134
13	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1:02'31.989
14	15	笹原右京	TEAM MUGEN	1:02'36.378
15	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:02'37.018
16	3	山下健太	KONDO RACING	1:02'38.107
17	12	福住仁嶺	ThreeBond DragoCORSE	1:02'47.141
18	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:02'47.637
19	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	1:02'49.092
20	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	1:01'54.761
DNF	55	三宅淳詞	TEAM GOH	1:01'54.761



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	富士	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	野尻智紀	56	15	3+20	3+15							
2	平川亮	40	1+20	15	4							
3	松下信治	20	—	—	20							
4	サッシャ・フェネストラズ	20	11	—	1+8							
5	宮田莉朋	19	6	2+11	—							
6	牧野任祐	16	5	—	11							
7	関口雄飛	13	8	5	—							
8	山下健太	10	—	8	2(QF)							
9	小林 可夢偉	8	—	2	6							
10	三宅淳詞	7	1	6	—							
∴												
	福住仁嶺	—	—	—	—							

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	鈴鹿	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	carenex TEAM IMPUL	52	28	20	4							
2	TEAM MUGEN	51	15	21	15							
3	KONDO RACING	27	11	8	8							
4	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	23	5	4	14							
5	B-Max Racing Team	20	—	—	20							
6	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	20	6	14	—							
7	KCMG	13	—	2	11							
8	TEAM GOH	10	3	6	1							
9	TCS NAKAJIMA RACING	6	4	—	2							
10	P.MU/CERUMO・INGING	3	3	—	—							
	ThreeBond Drago CORSE	—	—	—	—							

